

久しぶりのアメリカ

高部英明

吉田・畦地両氏に続いて物価の日米差から一言。確かにエネルギー・食料等、大変安い。ホテルにしても単位面積あたりの価格にしたら 1/3 ~ 1/4 ではないか。先日テレビで、老後を物価の安いオーストリアやスペインなどでは過ごす日本人の話聞いたが、こんな落差が続いたら若い人だって新生活を求めて海外へ、となりかねない。

円高差益に原油価の低下でガボガボもうけている企業の方が、たとえば「鳴門海峡・豊後水道・関門海峡にダムを作り、瀬戸内海を新天地にする。この大プロジェクトのために差益をプールしているのです。」などというオランダ的発想でも発表してくれるのなら日本にも救いはある。二週間半前に渡米し Rochester 大学、AVS(米国真空学会)、APS(米物理学会)(Baltimore)、Livermore と出席訪問してきました。紙面が限られているので箇条書風に気付いたことを記します。

AVS では当日の発表者と座長のため会場内の朝食の場を設け、各セッションごとにテーブルに付き、自己紹介・談笑する場を与えている。おかげでセッションの際、スムーズに会話が進みました。

「日本で Vacuum (真空) というと、町工場のイメージ、アメリカでは Professor が理論も駆使して研究する分野」とは、名大プラ研の宮原先生の言葉。確かにアメリカの裾野は広く深い。クライオ・ターゲット技術ばかり。

APS (物理学会) では ICF のセッション大入りに感激。そのコミュニティの広さに、レーザー研も、もっと研究者を (5 ~ 6 人は) 派遣すべきだと、畦地氏しきり。

レーザー研は世界の Leading lab. といいながら、2次元シミュレーションの結果を持ち合わせず、はずかしい思いをした。今後、APS に行くときは 2-D の結果を持って、と思った次第。

APS では Arizona 時代の(高部 HP)の旧交を温め、それぞれが Rochester、Los Alamos、Osaka と別れ、使うコードは LILAC、ORCHID、LASNEX、ILESTA と違っても、いい雰囲気では話ができたのが収穫。

NOVA をじっくり見せてもらいました。発振器室にも入りました。今度、激光 XII 号の発振器室も見せていただきたいと思います。(未だに見せて頂いていない: 05年5月)

Baltimore は IAEA 以来 4 年ぶりの訪問でした。その最初の印象が悪かった(危険・キタナイ)ので「イヤダナー」と思いつつでしたが、4 年間の様変わりに驚きました。Washington D.C. もいい雰囲気だったし。今度、又、US に行くのが楽しみです。